

## 2020 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

### ◎ 2 段階選抜実施状況

□ 第 1 段階選抜不合格者数は全日程で大幅減少

不合格者数最多は前期が東京大、中期・後期では一橋大

〔 2 段階選抜実施状況 (不合格者数) 〕

	前期				中期・後期				合計			
	2020年度	2019年度	増減数	指数	2020年度	2019年度	増減数	指数	2020年度	2019年度	増減数	指数
国立大	1,730	2,265	-535	76	1,879	2,978	-1,099	63	3,609	5,243	-1,634	69
公立大	408	1,395	-987	29	503	765	-262	66	911	2,160	-1,249	42
合計	2,138	3,660	-1,522	58	2,382	3,743	-1,361	64	4,520	7,403	-2,883	61

〔 2 段階選抜不合格者数の多い上位 10 大学 〕

順位	前期				中期・後期			
	2020年度		2019年度		2020年度		2019年度	
	1	東京大	605	首都大学東京	981	一橋大	298	山梨大
2	東京都立大	326	東京大	813	岐阜大	268	一橋大	366
3	大阪大	186	一橋大	172	奈良県立医科大	226	首都大学東京	320
4	高知大	149	新潟大	168	山梨大	206	旭川医科大	300
5	熊本大	113	熊本大	144	東京都立大	195	福島県立医科大	277
6	大分大	90	和歌山県立医科大	124	東京工業大	162	岐阜大	261
7	浜松医科大	88	信州大	123	福井大	142	山口大	230
8	秋田大	87	宮崎大	121	旭川医科大	127	鹿児島大	177
9	一橋大	62	弘前大	118	宮崎大	111	大分大	171
10	千葉大	61	大分大	107	東京医科歯科大	105	京都大	169
全体	2,138		3,660		2,382		3,743	

2 段階選抜の第 1 段階選抜不合格者数は、国公立大全体の志願者数減少の影響と第 1 段階選抜を嫌う慎重な出願により、前期、中期・後期ともに 1,300 人以上の減少となりました。

前期では 2,138 人で 1,522 人(58)の大幅減少となりました。国立大は 535 人(76)の大幅減少、公立大は 987 人(29)と激減しました。大学別では、東京大が全科類で 2 段階選抜を実施し、2 年ぶりに不合格者数が最多となりました。2 番目に多かったのは東京都立大ですが、志願者数が減少したことにより不合格者も 981 人→326 人と大幅減少しました。3 番目に多かったのは大阪大で、前年度は医(医)の 8 人のみでしたが、今年度は医(医)と外国語で実施され、186 人へ大幅増加しました。

中期・後期では 2,382 人で 1,361 人(64)の大幅減少でした。国立大(63)、公立大(66)はいずれも 35%前後の大幅減少でした。大学別では、一橋大が不合格者数最多でしたが、68 人(81)の大幅減少で、300 人を下回りました。2 番目に多かったのは岐阜大でしたがほぼ前年度並でした。3 番目に多かった奈良県立医科大は医(医)で実施され、不合格者は 55 人→226 人の大幅増加でした。

なお、2021 年度入試での出願にあたっては、2 段階選抜実施の有無、予告倍率の変更などに注意を払うとともに、第 1 段階選抜合格者数の実数をチェックして、予告倍率通りに実施されたか、それとも緩和されたかを把握したうえで出願校を決定することが大切です。さらに、センター試験が共通テストに変わること、従来とは第 1 段階選抜通過ラインが大きく変化する可能性があります。したがって、正確な自己採点が例年以上に求められることとなります。